

「おおいた茶グリーン」に適した被覆資材

農業研究部

1. 研究の背景

大分県産茶ブランド「おおいた茶グリーン」は被覆することによって作られる高品質茶であり、その合格基準の第一は全窒素含有率6.0%以上である。そこで、全窒素含有率6.0%以上をクリアでき、葉傷発生の少ない被覆資材の選定を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

供試したすべての資材において「やぶきた」を10日間被覆すると、全窒素含有率は6.0%以上に達し、官能審査の結果は変わらなかった。しかし、80%よりも高い遮光率の資材では葉傷が多く発生し、品質が低下した。

したがって、「おおいた茶グリーン」生産のためには、70～80%の資材で被覆するのがよいと考えられる。

供試した被覆資材

商品名	遮光率	色	メーカー
バロンスクリーン#1000 (以下バロン70)	70%	黒色	(株) 小泉製麻
ダイオネット1002A (以下ダイオ75)	75%	黒色	(株) ダイオ化成
オセロスクリーンWB80 (オセロ80)	80%	黒白	(株) 日本ワイドクロス
ワイドスクリーン#1114 (ワイド80)	80～85%	黒銀	(株) 日本ワイドクロス
バロンスクリーン#3200 (バロン85)	85%	黒色	(株) 小泉製麻

各被覆資材で被覆後の「やぶきた」収量、全窒素、葉傷発生程度、官能審査結果

	生葉収量 (kg/10a)	全窒素 (%)	葉傷発生程度				官能審査			
			0	1	2	合計点	香気	水色	滋味	合計点
バロン70	532.2	6.35	73	25	2	29	9.0	8.5	9.5	27.0
ダイオ75	484.4	6.60	57	32	9	50	9.0 覆い香	9.0	9.0	27.0
オセロ80	500.0	6.55	58	41	1	43	9.0	9.0	9.0	27.0
ワイド80	423.9	6.70	46	33	21	75	9.0	9.0	9.5	27.5
バロン85	431.7	6.85	18	29	53	135	10.0 覆い香	7.0 赤み	8.5 苦み	25.5

注) 葉傷発生程度は摘採芽のうち100芽の葉傷の大きさを0=無、1=葉縁がやや褐変、2=内部まで褐変の三段階に目視で分類し、本数を計測した。合計点は各段階×本数の合計。



10日被覆後の葉傷発生の様子
左：バロン70 右：バロン85

3. 期待される効果

- ・「おおいた茶グリーン」合格率の向上、生産の効率化
- ・「おおいた茶グリーン」生産量の増大による農家所得の向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 茶業チーム
TEL 0974-28-2082
住所 豊後大野市三重町赤嶺2328-8